

平成26年度西海ブロック水産業関係研究開発推進会議  
 漁業資源・海洋環境部会報告書

会議責任者	西海区水産研究所長
-------	-----------

1. 開催日時・場所 日時：平成26年11月7日（金）13：30～15：00  
 場所：長崎県商工会館2階ホール
2. 出席機関数及び人数 8機関 28名
3. 結果の概要

議 題	結果の概要
1. 開会	西海区水産研究所資源海洋部長が開会を宣言した。
2. 挨拶	西海区水産研究所長より、当日午前の地域増養殖研究部会における挨拶の中で、今年の台風等異常気象に触れつつ、気象現象と海洋環境、漁況との密接な関連について指摘すると共に、意見交換と研究ニーズ対応についての検討・議論を進めていただくことを要望した。
3. 座長選出	前例に倣い、西海区水産研究所資源海洋部長を座長とした。
4. 議事	
1) 研究開発の実施状況	研究開発課題情報管理システムに登録された各県水試・センターおよび西海区水産研究所の研究課題の中から、水産資源、水産海洋、漁場保全関係課題で漁業資源・海洋環境部会の中で取り扱うべき課題を抽出して資料として提出した。各参画機関から重点課題や新規設計課題等について紹介され、質疑・意見交換を行い、情報共有した。長崎県のS61からの継続県単事業「沿岸漁業開発調査」について、各県から長期にわたりモニタリング調査が実施されていることに関心が寄せられ、長崎県から漁業者からの要望が強い事業であることが報告された。また座長より、特に、福岡県水産海洋技術センターの課題については、西海ブロックだけでなく、利用加工などの分野別推進会議も登録する方が適当であろうとの助言があった。
2) 水産研究開発成果情報の審議	研究成果情報管理システムに登録された西海ブロック成果情報のうち、水産資源の持続的利用にかかる成果2件について、担当機

	<p>関から概要説明を行うとともに、その内容について審議を行った。</p> <p>2 課題それぞれについて、一部修正するところが指摘されたが、その提出内容を成果とすることについては部会としての承認が得られた。質疑は以下のとおり。</p> <p>1) 福岡県水産海洋技術センター提出成果「北九州関門海域におけるマダコの生態に関する研究」については、タイトルを実際の研究内容を反映させ、「生態」でなく、「成長、成熟」に修正することが求められた。また図1についてグラフの色分けの注釈が求められた。さらに成熟時期の記載について適切な表現に改めることと、今後、成熟の判断には組織切片による確認も必要との指摘があった。</p> <p>2) 西水研提出成果「東シナ海および日本海西部におけるマアジの成長・生残過程」については、内容は適切だが、説明する図が不足しているとの指摘があった。分布図だけでなく、未成魚の海域毎の孵化日組成を追加することとした。</p> <p>座長から、今回承認された成果情報は西海ブロック水産業関係研究開発推進会議で協議されるにあたり、11/20 までに修正の上、再提出するよう依頼された。</p> <p>3) 研究会等報告</p> <p>座長より、H22 年度に上げられたニーズに対応し、今年度ケンサキイカ研究会が発足されるに至った経緯が報告された。</p> <p>資源海洋部長より、ケンサキイカ研究会の活動報告を行った。初年度であることからまだ漁況情報の取り纏め、発信にとどまるが、第1回研究会を年明けに開催する予定であることが紹介された。佐賀県、山口県等から、主要産業であることから近年の漁況の変化を科学的に解明することが本研究会の発足理由であったこと、前身の研究会をレビューし、成長等基礎的生態的知見を蓄積しつつ、本研究会の目標、方向性を明確にすることが重要であるとの指摘があった。</p> <p>4) 研究開発ニーズ等への対応</p> <p>座長より、当部会で協議すべき研究開発ニーズはあげられなかったことが報告された。</p> <p>資源海洋部長より、今年度九州・山口ブロック水産試験場長会において検討事項として上げられた「黒潮と対馬海流との関係の解明」及び「マアジの不漁に関する要因の解明」について、西水研の</p>
--	--

	<p>対応案を示した。</p> <p>これに対し、所長より、提案した関係者に対して、九州・山口ブロック水産試験場長会の検討事項ではなく、当ブロックの研究開発ニーズとして提案するように依頼した。また、中田研究主幹より、マアジについて研究計画案が示されれば、水研センターとして交付金課題として取り組むことができる可能性もあることも紹介された。</p>
5) その他	特になし。
5. その他	特になし。
6. 閉会	資源海洋部長が閉会を宣言した。